

○全体景況（緩やかに改善している）

・生産は、車載向け・スマートフォン向けを中心に電子部品・デバイスの生産が堅調に推移。個人消費は、衣料品の弱い動きが継続しているものの、相場高もあり飲食料品が堅調に推移。

○生産

・自動車関連：北米等海外向けを中心に北海道、東北、関東、東海、中国、九州で堅調に推移。国内向けは、関東、近畿、九州で新型車効果により増産。

・電子部品・デバイス：

車載向け、スマートフォン向けを中心に東北、東海、北陸、近畿、中国、九州で堅調に推移。

・はん用・生産用・業務用機械：

半導体製造装置などが海外向けを中心に、東北、関東、北陸、近畿、中国、九州で堅調に推移。

○設備投資

・製造業：設備の維持・更新に伴う投資に加え、一部に生産能力増強や合理化等への投資の動きもあり、多くの企業で計画通りに投資を実施。

・非製造業：小売業の新規出店や既存店舗のリニューアルの動き。

○雇用情勢

- ・製造業：技術者などで人手不足感があり、派遣社員などの積極的な採用の動き。
- ・非製造業：小売業、サービス業、建設業などで人手不足感があり、募集しても集まらない状況。

○個人消費

- ・百貨店・スーパー：引き続き衣料品に弱い動き。スーパーでは生鮮食品の相場高もあり、飲料品が堅調。
- ・コンビニエンスストア：新店効果に加え、カウンター商材が好調。
- ・自動車販売：軽自動車は不振が継続しているものの、普通車は新型車効果などにより好調。
- ・観光：外国人観光客による消費は高額品から一般消耗品へシフトし伸び悩み。

10-12月期企業の声

企業の主な声

生産

- ・台風被害による搾乳不能から、乳製品の生産が減少した。(食料品／北海道)
- ・中国のスマートフォン向けを中心に生産は高水準で推移。(電子部品・デバイス・電子回路／北陸)
- ・自動車や建設向け需要増が見込まれるが、足下では原料炭価格の大幅上昇により収益が悪化。(鉄鋼／関東)
- ・海外スマートフォンメーカーやIoT関連で国内外大手メーカーからの需要が旺盛。
(はん用・生産用・業務用機械／近畿)

消費

- ・上位顧客の動きは変わらないが、一般顧客の消費意欲は減退しつつあり、二極化している。(百貨店／東北)
- ・新型車効果により順調。ハイブリッドや高機能車種が好調で、落ち込んでいた軽自動車にも動きあり。
(自動車販売／北陸)
- ・インバウンド消費は、化粧品が引き続き良いが、高額品の売上が減少し、免税売上の総額は鈍化。
(百貨店／関東)
- ・暖房器具などに動きがみられたが、全般的には客数が減少し、客単価も低下傾向。(家電販売／九州)

雇用

- ・パート従業員を確保するため、賃上げや労働時間の短縮を行った。(飲料・たばこ・飼料／北海道)
- ・社員の定着・確保、モチベーション向上のため、賞与の支給月額を前年比増とした。(プラスチック／中国)
- ・大手に採られ工業高校の新規高卒者がなかなか採用できない。(はん用・生産用・業務用機械／四国)

設備投資

- ・定常的な人手不足対応、業務効率化に向けたITシステム投資を実施。(不動産／中国)
- ・国内拠点の生産性向上、IoTへの投資、先行技術に関する投資を実施。(輸送用機械／東海)
- ・熊本地震の被害を受けた施設の改修や、インバウンドを意識した設備リニューアルを行う。(観光／九州)

最近のトピックス

- ・ワークライフバランスの徹底として20時退社等を実施し、残業時間が減っている。(運輸業／沖縄)
- ・今までは営業・添乗があるので男性中心だったが、女性の発想・対応が必要であり、働き方改革も含めて、女性採用比率の上昇に取り組んでいる。(生活関連サービス／近畿)
- ・米国新大統領の政策に注視している。次年度の想定為替レートをどうするか悩んでいる。(輸送用機械／東海)

北海道

全体景況

〈緩やかに持ち直している〉

生産は自動車部品は好調なものの、台風被害の影響等から一進一退。個人消費は飲食料品等が堅調なことから持ち直し。観光は新幹線効果等から引き続き好調。

○生産は一進一退の動きとなっている

- ✓ 北米向けを中心に好調な自動車部品、新製品の生産開始による情報機器が増産。一方、国内外の需要減から発電機部品が減産。
- ✓ また、台風の影響により、復旧工事向けに鉄骨が増産、停電による搾乳不能から乳製品が減産。

○設備投資は減少している

- ✓ 前年度は大規模投資があり高水準だったが、今年度は製造業・非製造業ともに維持補修が多く、前年度比で減少。
- ✓ 製造業は、輸送用機械や非鉄金属で、自動車関係の新工場の新設、生産設備の増強投資等。
- ✓ 非製造業は、観光でホテルの新設や改装、小売で大型店舗の出店や物流センターの新設等。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 有効求人倍率は長期にわたり改善。特に外国人観光客で賑わうニセコ地域の有効求人倍率が高い。
- ✓ 一方、職種による雇用のミスマッチにより、建設、観光、製造、小売で現場の従業員が不足。
- ✓ このため、女性・高齢者に加え、中途採用や派遣社員の活用、臨時職員から正社員への登用、賃上げや労働時間短縮等により人員確保。

○個人消費は持ち直している

- ✓ 百貨店は、ファイターズ及びコンサドーレの優勝セールは好調だったものの、高級ブランドの免税売上げの減少や一部店舗の閉店により売上げが減少。スーパーは、飲食料品が引き続き堅調。
- ✓ コンビニエンスストアは、ホット飲料等の季節商材、ドラッグストアは、化粧品の免税売上げが増加。
- ✓ 新車販売は、ハイブリッド車が引き続き好調。
- ✓ 観光は、台風の影響は残りつつも、新幹線効果等から国内外客ともに高水準で推移しており、引き続き好調。

個別の動向

(企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

96.0(92.9)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

0.4%(▲1.2%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

1.1%(2.1%)

有効求人倍率
※季節調整値

1.02(1.05)

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。 4

東北

<一部に弱い動きがみられるものの緩やかに持ち直している>

全体景況

個人消費は新車販売に動きがあるが、全体としては足踏み状態。生産は半導体製造装置、車載・スマートフォン向けが堅調で、横ばい圏から緩やかな持ち直しの動きとなった。

個別の動向
(企業の声及び統計指標から作成)

○生産は緩やかな持ち直しの動きとなっている

- ✓ 電子部品・デバイスは、車載向け・スマートフォン向けを中心に堅調に推移。
- ✓ はん用・生産用・業務用機械は、半導体関連が好調で増加傾向。
- ✓ 輸送機械は、新たな自動車部品の生産開始等により増加。
- ✓ 情報通信機械は、国内市場低迷等により弱い動きが継続。

○設備投資は緩やかに持ち直している

- ✓ 前年度比増額とする企業が多い中、前期調査時点からの計画変更は少ない。
- ✓ 製造業では、輸送機械関連の新商品生産に対応した設備投資、食料品の新工場建設等、非製造業も、新規出店を続ける小売業等、前年度比増額とする企業が多い。
- ✓ 設備投資額は、製造業を中心に前年度比増加の計画。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 復興需要の下支えもあり有効求人倍率、新規求人倍率ともに高水準で推移しており、改善の動きが継続。
- ✓ 被災県の沿岸地域では、職種等によるミスマッチが依然として顕著。
- ✓ 雇用者の過不足判断では、前回調査(7~9月)に比べ、「不足」とした企業が僅かに減少したものの、依然多い。
- ✓ 今後の懸念材料として、若年層の確保が一層厳しくなるとの声。

○個人消費は足踏み状態となっている

- ✓ 百貨店・スーパーは、化粧品が好調であり、歳暮など飲食料品にも動きがみられる一方、衣料品は不調が続き、宝飾品などの高額品もふるわず。
- ✓ コンビニエンスストアは、新店効果などにより堅調。新車販売は、普通車、小型車などの新型車効果により持ち直しの動き。
- ✓ 節約志向が続く一方、品質の良さなど納得感があれば多少高価でも購入されている、との声。

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

99.5(98.1)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

▲0.2%(▲2.1%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

1.7%(2.5%)

有効求人倍率
※季節調整値

1.34(1.30)

関東

〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している〉

全体景況

個人消費は節約志向などから足踏みがみられ、生産は輸送機械が堅調ななか全体としては一進一退で推移している。雇用情勢は引き続き改善している。

○生産は一進一退で推移している

- ✓ 輸送機械は、軽乗用車の国内向け販売が伸び悩んでいるものの、普通乗用車や小型乗用車は新型車効果による増産や輸出が好調であることから、生産は堅調に推移している。
- ✓ 一般機械及び電気機械は、液晶パネル向けや自動車向けの需要が堅調に推移しているが、その一方で、受注が減少している企業もみられた。
- ✓ 鉄鋼業はオリンピック関連などの建設分野、自動車向けの需要増加が期待されるが、原材料価格の上昇による収益悪化の声が聞かれた。

○設備投資は前年度を上回る見込み

- ✓ 製造業では、大企業、中小企業共に年度当初の計画どおりに設備投資を行うという声が多い。当初計画から積極的な変更を行ったという声は中小企業に多く、能力増強や計画の前倒しを行うといった声が聞かれた。
- ✓ 非製造業では、店舗改装など、年度当初の計画どおりに設備投資を行うという声が多い。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 製造業では、人材の不足感がみられ、技術者や派遣社員などの積極的な採用の動きがみられる。一方で、雇用情勢の改善に伴い、中小企業を中心に人材の確保が難しい状況にある。
- ✓ 非製造業では、技術者や店舗販売員などに不足感があり、今後も継続するとの見方が強い。

○個人消費は緩やかに持ち直しているものの、このところ足踏みがみられる

- ✓ 百貨店は、節約志向と、ボリュームゾーンである中間層の売上の低迷が続いている。また、訪日外国人の客単価及び購入額が減少している。
- ✓ スーパーは、野菜の高騰から売上は増加しているものの、買上げ点数は減少するなど、買い控えの様子がかげえる。
- ✓ コンビニエンスストアは、カウンター商材を中心に引き続き堅調。
- ✓ 乗用車販売は、軽乗用車では不振が続いているものの、登録車は新モデル効果から好調。

個別の動向
(企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

銚工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)	有効求人倍率 ※季節調整値
94.1(93.0)	▲0.4%(▲3.8%)	2.8%(2.0%)	1.45(1.42)

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。 6

中部(東海)

全体景況

〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している〉

生産は、輸送機械は増加の動き、電子部品・デバイスは緩やかに持ち直し。個人消費は、生鮮食品の値上がりの影響もあって販売額が増加したものの、衣料品の不振は継続。

個別の動向
(企業の声及び統計指標から作成)

○生産は持ち直している

- ✓ 主力の自動車関連は、海外向けが堅調、国内向けが緩やかに持ち直していることから、増加の動き。
- ✓ 電子部品・デバイスは、高機能スマートフォンの新機種向けに加え、中国ローカルスマートフォンメーカー向けも好調であることから、緩やかに持ち直し。
- ✓ 金属工作機械は、補助金関係を中心に国内向けの生産が好調であることから、持ち直しの動き。

○設備投資は増加しているものの、伸びは鈍化している

- ✓ 製造業では、引き続き積極的な合理化・効率化投資や維持・更新に加え、自動車部品では新製品対応、金属工作機械では能力増強投資の動きがみられる。
- ✓ 大企業は継続的に投資をしているが、中小企業は支援制度(補助金、税制)への期待が強い。
- ✓ 非製造業では、百貨店、スーパーやコンビニエンスストアなどの小売業で改装の動き。

○雇用情勢は着実に改善している

- ✓ 製造業では、大企業では一時期ほどの不足感は緩和しているものの、依然として中小企業を中心に不足感が継続。
- ✓ 非製造業では、スーパーやコンビニエンスストアなどの小売業で非正規社員などの不足感が継続。募集しても人が集まりにくい状況。

○個人消費は足踏み状態となっている

- ✓ スーパーでは生鮮食品の値上がりの影響もあって飲食料品の販売が増加。
- ✓ コンビニエンスストアは、カウンター商材が引き続き堅調。
- ✓ 百貨店では、衣料品の不振が継続。訪日外国人売上(インバウンド需要)は、高額品から一般消耗品へシフトし、伸び悩み。
- ✓ 家電販売は、季節空調や白物家電に動きがみられたが、情報家電の不振が継続。
- ✓ 乗用車販売は、軽自動車の不振が継続しているものの、普通車は好調。

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

111.5(110.1)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

1.5%(▲2.5%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

4.3%(2.1%)

有効求人倍率
※季節調整値

1.64(1.58)

中部(北陸)

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに改善している〉 生産は「電子部品・デバイス」を中心に緩やかな増加傾向となっており、個人消費は自動車、食料品やハレの日消費が堅調で、緩やかな持ち直しの動きがみられる。</p>
-------------	--

<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は緩やかな増加傾向となっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 化学は、新薬で後発医薬品への切替えがみられるものの、後発医薬品や受託生産が引き続き好調。 ✓ 電子部品・デバイスは、自動車向けが好調なことに加え、中国を中心にスマホ向けが増加。 ✓ はん用・生産用・業務用機械は、海外からの受注が集中した半導体製造装置がフル稼働となっている。 ✓ 金属製品は、住宅用建材が住宅着工に比例して伸びてきたものの、相続税対策等もあって貸家(集合住宅)の割合が増加しており、相対的に床面積の伸び率が小さいことから、全体として若干の増産にとどまっている。 ✓ 繊維は、主力の衣料で、中東向けなどが堅調なものの、国内向けを中心に低調。 <p>○設備投資は高水準で推移している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業は、一部で前年の反動減がみられるものの、新製品の研究開発や生産性向上のための投資が継続。また、需要地としての海外投資にも積極的。 ✓ 非製造業は、北陸新幹線開業に伴う大型投資は落ち着いたが、店舗改装や営業エリア外への新規出店は増加。 <p>○雇用情勢は改善している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、生産が増加している企業は、派遣社員の増員や社内における配置換えなどでやり繰りしている。 ✓ 非製造業では、パート・アルバイトが集まらないことから、定年退職者の再雇用などで人員を確保している。 <p>○個人消費は緩やかな持ち直しの動きがみられる</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 百貨店では、シニアを中心に客数が減少し、衣料品などの季節商材も苦戦しているが、富裕層は回復の動き。 ✓ スーパーでは、衣料品や寝具・玩具などの動きが鈍いものの、相場高もあって主力の食料品の売上げは堅調。 ✓ 消費者は、品物を見定める傾向が強くなっているものの、ハレの日消費などは堅調。 ✓ 自動車販売は、新型車効果により順調に推移し、落ち込んでいた軽自動車にも動きがみられる。 ✓ 観光客は、前年の北陸新幹線開業効果に一服感がみられるものの、クルーズ船の寄港も多く、外国人は増加。
---	--

<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H22=100) <small>※季節調整値</small></small></p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p>
	<p>130.1 (120.8)</p>	<p>4.1%(▲1.4%)</p>	<p>4.3%(3.2%)</p>	<p>1.71(1.64)</p>

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。8

全体景況

〈緩やかに改善している〉

生産は電子部品・デバイスや電気機械が高水準で推移し生産用機械も増加するなど持ち直しの動き。雇用情勢が改善するなか、個人消費は緩やかな改善の動き。

○生産は持ち直しの動き

- ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォンの高機能化により高水準で推移。
- ✓ 電気機械は、車載用をはじめとする蓄電池が堅調に推移。
- ✓ はん用・生産用・業務用機械は、海外向けの半導体やフラットパネル・ディスプレイの製造装置等が増加。
- ✓ 輸送機械は、自動車部品が増加し、国内向け新型車効果もみられる。化学は、化粧品が好調に推移。

○設備投資は持ち直している

- ✓ 製造業では、設備の維持・更新や生産能力増強を中心に、多くの企業で当初計画どおり投資が実施されている。また、引き続き、地産地消を目的として海外への投資も行われている。
- ✓ 非製造業では、倉庫など物流施設への投資や小売業で国内需要拡大のための店舗改装がみられる。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 依然として人手不足が続いている。小売業やサービス関連では、時給を上げて採用に取り組んでいるもののパートやアルバイトの確保が困難であり、また製造業を中心に有資格者や技術者などの人材獲得競争が激化しているとの声も聞かれる。
- ✓ 働き方改革への取り組みとして、残業の抑制による長時間労働の解消や、女性・外国人活用の動きがみられる。

○個人消費は緩やかな改善の動き

- ✓ 百貨店は、株高の影響もあり高額品に動きがみられるもののボリュームゾーンは弱い動き。スーパーは、惣菜が好調なことに加え農産品の相場高もあって飲食料品を中心に堅調。コンビニは、カウンター商材等が引き続き好調。
- ✓ 家電は、季節家電は好調であるものの、総じてみればやや弱含んでいる。乗用車は、軽乗用車が回復傾向にあり、普通車や小型車も新型車効果により前年を上回っている。
- ✓ 旅行は、引き続き政情不安等から海外が低調。外国人観光客による消費については、化粧品が好調との声が目立つ。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

106.1(101.8)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

▲1.0%(▲4.0%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

5.3%(3.9%)

有効求人倍率
※季節調整値

1.34(1.30)

全体景況

〈持ち直している〉

生産は、設備定修明けの化学や輸出好調な自動車などが増産し、緩やかな持ち直しの動き。個人消費は、飲食料品や家電、乗用車販売が堅調に推移し、持ち直している。

○生産は緩やかな持ち直しの動き

- ✓ 化学は、前期のような定修や大きな設備トラブルがなく、計画どおりの生産が実施できたことから、増産。
- ✓ 自動車は、マイナーチェンジの実施や輸出が好調で、軽乗用車の生産も軌道に乗ったことから、増産。
- ✓ 電子部品・デバイスは、スマホ向け受注増により増産。
- ✓ 鉄鋼は、粗鋼生産量は対前期比で微増し、薄板の在庫調整も進展したことから、横ばい。
- ✓ はん用・生産用・業務用機械は、海外顧客からの受注が好調ではあるものの、これまでの受注量と比べボリュームが低下傾向にあることから、横ばい。

○設備投資は持ち直している

- ✓ 製造業では、受注増加や新製品対応に向けた前向きな動きに加え、老朽化や生産性向上対応として行う既存設備の維持更新が進められている。一方、採算悪化や先行き不透明感から設備更新を先送りした声も。
- ✓ 非製造業では、引き続き、新規出店や既存店の増床・改装、設備の維持更新が進められている。

○雇用情勢は着実に改善が進んでいる

- ✓ 正社員・パートを問わず、製造業では技術職、非製造業では様々な職種で人員不足の声が聞かれる。また、人員不足を補うため残業時間を増やしているとの声や契約社員の正社員化や派遣社員の社員登用を図っているとの声も聞かれた。

○個人消費は持ち直している

- ✓ 百貨店では、飲食料品は堅調だが、衣料品が低迷、高額品の動きも鈍く、一層節約志向が高まっている。
- ✓ スーパーでは、相場高により野菜が伸長、機能性肌着が売れた。
- ✓ ホームセンターでは、暖房器具や健康器具、家電大型専門店では、白物家電、テレビ、エアコンが好調だった。
- ✓ ドラッグストアでは、ポイント販促の実施により消費者の購買意欲が高まったとの声が聞かれた。
- ✓ 10、11月はカープ関連のセール効果がみられた。
- ✓ 乗用車販売は、7月以降前年を上回っている。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

銚工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)	有効求人倍率 ※季節調整値
97.3(96.4)	0.0%(▲2.3%)	4.0%(5.2%)	1.62(1.57)

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。10

四国

全体景況

〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している〉

生産は、中国向け需要停滞などから一部に弱い動きがあるが、衛生用紙などは高水準。個人消費は、スーパーが生鮮野菜の相場高で堅調、乗用車は普通車など一部持ち直し。

○生産はおおむね横ばい

- ✓ パルプ・紙・紙加工品は、引き続き衛生用紙で輸出に伸びがみられるなど、おおむね高水準の生産。
- ✓ 食料品は、業務用調味料などが好調であることから、持ち直しの動き。
- ✓ 繊維・窯業・土石、鉄鋼、非鉄金属、はん用・生産用機械などは、おおむね横ばいで推移。
- ✓ 化学・石油石炭製品、輸送機械(造船)は、中国向け需要の停滞などから、一部に弱い動き。

○設備投資は緩やかな持ち直しの動き

- ✓ 設備投資計画は、維持・更新投資が中心。
- ✓ 食料品やパルプ・紙・紙加工品、プラスチック製品などでは増産・新規受注対応、小売などでは店舗の新設といった積極的な投資も計画されている。
- ✓ 一方、不急の設備投資を先送りするなど、抑制的な動きも一部にみられる。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 雇用者数を適正とする企業が多いものの、食料品、パルプ・紙・紙加工品、プラスチック製品、小売、住宅販売、建設などでは人手不足感が強く、雇用者数を増やす動き。
- ✓ 一方、中小企業を中心に、採用したい職種の人材確保が難しく、小売、建設などでは人材不足が継続しており、事業活動に影響が及ぶことを懸念する企業も。

○個人消費は弱いながらも持ち直しの動き

- ✓ 百貨店では、気温が高めに推移したことなどから主力の衣料品が振るわず、高額品の動きも鈍かった。スーパーでは生鮮野菜の相場高もあって飲食料品は堅調に推移。
- ✓ コンビニエンスストアでは、新店舗効果に加え、カウンター商材や総菜、冷凍食品などが好調だったことから堅調に推移。家電販売は4Kテレビや白物家電の高単価商品に動きがみられた。
- ✓ 乗用車販売は、軽乗用車の回復が遅れているものの、小型乗用車、普通乗用車などは新型車を中心に持ち直しの動きがみられる。

個別の動向
(企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

銚工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)	有効求人倍率 ※季節調整値
98.6(100.9)	▲1.5%(▲1.7%)	4.9%(5.3%)	1.42(1.40)

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。11

九州

<p>全体景況</p>	<p>〈持ち直している〉 海外向けが好調で主力の自動車及び半導体で生産が増加したほか、個人消費は気温低下で冬物商材に動きがみられるなど持ち直しの動きがみられた。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は持ち直している ✓ 輸送機械は海外向けが引き続き好調であることに加え、新型車も好調で生産が増加。 ✓ 電子部品・デバイスはスマートフォン用途等の受注が引き続き好調で生産増となり、熊本地震後の挽回生産でフル操業を継続している企業もみられた。 ✓ はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置が国内向けで弱い動きがみられるが、海外向けでは堅調に推移。 ✓ 一方で、鉄鋼は国外需要の減少・原料炭価格の高騰等で収益悪化が継続。</p> <p>○設備投資は持ち直しの動きに一服感 ✓ 製造業では、電気機械で新商品開発に向けた投資がみられ、電子部品・デバイス、はん用・生産用機械、非鉄金属等で増産に向けた投資の動きあり。一方で、熊本地震の影響等で一部先送りする動きもみられた。 ✓ 非製造業では、集客・販売力強化のための店舗改装や、人材不足に対応した投資を行う動きがあった。また、建設資材高騰や人材不足から新規出店を先送りした企業もみられた。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 有効求人倍率が過去最高値を記録するなど高水準で推移し、製造業・非製造業ともに人材不足が慢性化。 ✓ 機械化による作業の簡素化、生産性の向上、非正規社員の正社員化に取り組む動きがあったほか、テレワーク等を導入し働き方の多様性を推進する企業もみられた。</p> <p>○個人消費は持ち直しの動きがみられる ✓ 百貨店・スーパーでは、10月は天候不順の影響等により来客数が減少したものの、11月は気温低下により冬物衣料の動きがみられるとともに、食料品等にも動きがみられた。 ✓ 観光は「九州ふっこう割」などで客単価が低下したものの、九州方面は前年を上回った。 ✓ 家電販売は気温低下からエアコン等の暖房商品に動きがみられた。 ✓ 住宅関連は、熊本地震の影響で戸建ての建替えが増加しているほか、利便性の良い都心部のマンションも引き続き好調。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p>110.8(105.0)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>1.4%(▲2.9%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>7.9%(9.7%)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p>1.29(1.26)</p>

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。
 ※コンビニエンスストア販売額は、九州・沖縄の数値。

<p>全体景況</p>	<p>〈改善が続いている〉 管内の観光客数の増加、人口増加、雇用環境の改善等を背景に、個人消費が堅調に推移している。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は一部に弱い動きが見られ足踏み状態となっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 鉄鋼、窯業土石製品は、民間・公共投資が底堅く推移。先行きについても年度末の公共工事等により増加との声も聞かれた。 ✓ 管内の主要な製造業である食料品工業は、一部で弱含んでいるとの声も聞かれたものの、観光向け商品は堅調に推移している。 <p>○設備投資は緩やかに持ち直している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業・非製造業ともに平成28年度計画を増額。 ✓ 製造業では老朽化による工場建て替えや機器入替、非製造業では店舗リニューアル・移転などの設備投資を実施するとの声が聞かれた。 ✓ 一部には次年度に大型の設備投資を行うとの声も。 <p>○雇用情勢は改善が続いている</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 有効求人倍率は、全国と比べ差があるものの1倍台を超えており堅調に推移。 ✓ 建設業や情報通信業では技術者、小売業では非正規職員、製造業・運輸業・サービス業では正規・非正規職員ともに不足となっている。 ✓ 一部には、雇用条件の改善(離職率低減)やIT活用・機械化、働き方改革(ワークライフバランス等)を実施するなどの声も聞かれた。 <p>○個人消費は改善が続いている</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 百貨店・スーパーでの販売額が前年同月比を上回るなど堅調に推移。背景の1つとして、航空路線の拡充が夏季から継続していること等から、入域観光客数が50ヶ月連続で前年を上回るなど堅調に推移している。 ✓ 一部には、人口の増加や観光客数の増加、雇用・所得環境の改善が個人消費を引き上げているとの声も。 			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; color: red;">103.8(96.7)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: red;">4.2%(3.1%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: blue;">7.9%(9.7%)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; color: red;">1.02(1.00)</p>

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値(鉱工業生産指数は10月、括弧内は7月)。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額は、九州・沖縄の数値